

GCOE地球たちへ 共催 地惑セミナー

11/18(水)

丸山 茂徳 先生 (東京工業大学大学院 地球惑星科学専攻 教授)

地球温暖化論争と 21世紀の気候変動予測

11/18 17:00~ @本館H111 講義室

<人為起源CO₂が過去140年の温暖化の原因か？>

過去1000年間の地球の平均気温変化、宇宙線の照射量の変化、太陽の活動度（相対黒点数の変化）を比較すると、人為起源説は否定され、代わって太陽の活動度の強弱が宇宙線の照射量を規制し、それが雲の量の増減を決めているとするSvensmark(1998)の説を明瞭に支持している。

<21世紀の気候変動予測>

そこで、太陽の活動度の経験的な変化（11年、100年、200年周期）、一定して減少してきた地球磁場の強度（後1000年で地球磁場強度はゼロになる）、火山噴火と宇宙線強度の変化、更に地球軌道要素の変化を考慮して今世紀の気候を予測すると、今世紀の気候変化はIPCCが予測する一方的温暖化ではなく、逆に寒冷化の世紀になるだろう。2035年に向かって一方的に寒冷化するだろう。